

編集後記

ここに「大学地域連携学研究」第5巻を無事にお届けできることを、編集委員長として心より嬉しく思います。今号からこの重責を担うこととなりましたが、寄せられた珠玉の論文を通じ、本学問領域が持つ可能性の大きさを改めて実感しております。

今号に掲載された論文は、極めて多角的な視点から「大学と地域の連携」を捉えています。離島におけるICTを活用した遠隔スポーツ指導の有効性や、海外大学における「第三の使命」の実態調査、産学官連携による観光土産品の付加価値創出、さらにはアニメ聖地の持続可能性に向けたファン参加型の清掃活動など、実社会の課題に正面から向き合った実践報告が数多く寄せられました。また、17年にわたり53もの提案を積み重ねてきた学生プロジェクトの総括や、地域文化を媒介にネグロス島と水戸を繋ぐ往還的な国際協働学習といった、継続性が育む「知」の深まりを示す事例も際立っています。

理論面においても、認識科学と設計科学を架橋する「総合知」の重要性や、現場の教師が子どもの姿を捉える「見取り」という暗黙知の言語化、将来の指導者養成に不可欠な「運動投企」の分析など、実践を支える理論的基盤を精緻化しようとする意欲的な試みが示されました。これらの研究は、大学が単なる支援者ではなく、地域と共に新たな価値を創出する「共創の担い手」であることを雄弁に物語っています。

こうした多様かつ深い洞察に満ちた論文をご投稿いただいた各位に、深く感謝申し上げます。今後も、理論と実践を往還し、既存の専門領域の枠を超えた「越境研究」が本誌を通じてさらに加速することを、心より期待しております。

最後になりますが、編集作業を一重に支えてくださった日本大学の関慶太郎先生をはじめ、編集委員会委員の皆様、最大限の感謝を申し上げます。皆様の厳格かつ温かい査読と編集作業、そして的確なご助言がなければ、今号の刊行は成し遂げられませんでした。

本誌が、大学と地域のパートナーシップをさらに深化させ、持続可能な未来を切り拓くための「対話の広場」となることを願い、編集後記とさせていただきます。

編集委員長 近藤 克之（日本大学）

大学地域連携学研究 第5巻

令和8年3月25日 発行

発行責任者

発行所

落合 康浩

大学地域連携学会 事務局

〒274-8501

千葉県船橋市習志野台7-24-1

日本大学工学部船橋キャンパス

E-mail: admin@reg-coop.org
